夕刊
磐城新聞
九月二十二日發行
定價 一ケ月金六十五錢（郵税拾五錢）一部金五錢
廣告料金 普通欄 金六拾錢 特報欄 金九拾錢（一行五號十二字詰一行一回）（場所指定一割増）
編輯印刷兼發行人 福島縣石城郡平町十六番地 鈴木哲
發行所 磐城新聞合資會社
登載受付電話（タイライワキ）平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八〇・五五六五番

天氣豫報
小名濱測候所發表

今晩も明日も北東の風曇驟雨模様

らくがき
由利濱之助

○

この夏のころ、暑さに耐へられないで、風通しのいゝところに寝そべりながら雑誌などを讀んだせいか、自分にはこのごろ『仰臥讀書』（とでも云はふか）の癖がついてしまつた

まさか、いゝ癖なんていふのはないだらうが、あまり結構なことでもないので直さう直さうと心がけてゐるがなかなか直らない。それもその筈、自分は近頃机に向ふと、どうしたものか氣持が束縛されてしまつて考へが進まないんだが、氣樂に寝ころびながら裏板のふし穴でも見つめてゐると不思議にも頭が冴えて來ていろいろなことが浮んで來る

まだ生きのびた蚊軍が跋扈してゐるので、前夜のうちに仕上げなければならない仕事があると、自分は小型の文机を蚊帳のなかに入れる。先づ布團の上に仰むけになりながら大体の考へを纏めて、いざ書き出さうと机に向ふんだが、きまつてペンが進まず、煙草ばかりプカプカふかして、何時の間にか十二時の聲を聞いてしまふことがときどきある——いつそ寝ながら物を書くことにしやうか、それにしても困つた癖がついたものだ

○

勤め人なら、たいがい同じ氣持であらうが、自分は一週のうちで土曜日の夜を一ばん樂しみにしてゐる。日曜日になつてしまへば、『またあすから勤めだ……』といふ心の負擔が出來てしまふので、しみじみと休み日の樂しさは味ふことも出來ない。だから自分は一週一度與へられたこの土曜日の夜は『自分の時間』として自分の意の向くまゝに過ごしてゐる、映畫にゆくにも一人、散歩するにも一人それだのにときたま街で出會はす知人から親しげに言葉をかけられながら同行されたりすると『土曜氣分』はたちまちふつ飛んでしまひ淡い悲しみさへ湧いてくるのだ。餘りにも唯我獨尊的氣分だと笑ふものは笑ひ給へ、自分はこれで充分心の滿足を感じてゐるんだから

—（九月十九日）—

廢坑
渡邊何鳴選

（上）　鈴木欣々子

廢坑のくつわが窓に來て鳴くよ
廢坑の末枯れさびしちゝろ鳴く
落葉掻きまれにぞ通ふみちとなれり
廢坑の草枯れあかき野となりぬ

戰争と文學
中谷生

一

一般にあらゆる藝術がさうであるように、極めて少數の例外を除けば、戰時に於て文學の華が咲き誇ると云ふような現象は未だかつて古今東西の史上にその例がない。戰争の盛んな時代は文學の上から云へば暗黒時代であつて、純粋の戰争文學と云ふやうなものでも戰争が終つたから後の世に現はれるが、戰時には決して現はれない。これは、別に考へて見るまでもなく當然の現象であらうと思ふ

×

併しながら、文學が戰争に影響し、戰争が文學に影響した——と云ふような例は、これは又、少なからず見受けられる所である

文學が戰争に影響する場合にはそれは、國民文學乃至民族文學的な方面を取つて、國家主義的な意識の强化に役立ち、むしろ戰争を煽動する側に立つ場合が多いのであるが、わが國には此種の例は殆んど見かけないやうである

これに反して、戰争によつて文學が影響される場合には、その文學は、多くの場合に於て反戰的、厭世的悲觀的であるか、或は、左翼的であつて、國家間の戰争を回避せんとする傾向が現はれる。この方は、わが國にも多くの例があるのであつて、中世の所謂戰記物が、勇壮活潑な戰場描寫に主力を注いでるやうに見えて、案外その底には、佛敎思想的や厭世觀が潜んで居ることは既に周知の所である

風に落葉の
武島しぐれ

風に落葉のする頃は
なぜか悲しくなつて來て
一人で泣ける私なの

風に落葉のする頃は
はかない戀の思ひ出に
一人で泣ける私なの

風に落葉のする頃は
夜の窓邊の月を見て
一人で泣ける私なの

聞輕車奇禍
（其の二）　珠宴　小野務平

出洞飈奔有火輪
輕車一觸碎成塵
肉飛骨飛血流杵
忽隔幽明二十人

9月23日

△賴山陽歿（天保三）△東京帝大にて女子聽講生を入る（大正九）△櫻島岳俄然活動を開始、イギリス東洋艦隊五隻神戸港に入港（昭和一〇）

9月24日

△西川如見歿（享保九）△紀伊國屋文左衛門歿（享保一九）△西郷隆盛歿（明治一〇）

講談　悲戀 髑髏組（どくろぐみ）
(1) 林杢兵衛作　金子士郎畫

狂言仇討　（一）

草肥ね、花睡る元祿の春薰風微笑み、土堤の櫻も萬朶の花をつけて繚亂たる長閑さだ。

日もまさに暮れなんとする五つ下り、延命院の墓地地藏堂の裏手で車座頭を五つ六つも寄せて何やら頻りに談じ込んでゐる一團がある、その十か十二の眼の下には、荷合羽の上に、二分銀二枚が頭で、一朱銀や銅錢の小粒まで取り交せてざつと三兩、まさか野合稼ぎの盆ゴザ博奕でもあるまいと言ふのは、寄せ集めた頭の恰好が各人各様、くれぐれに異つてゐるからだ。

月代の伸びた浪人髷が二つ、前髮だての若衆造りが一つ、テクテクに剃りあげた坊主頭が一つ、それに何處のやくざか三ン下か、髮下りに結わげた俠客髷が二つ。

こうした得體の知れない集團に交つて、花も羞ぢらう赤手柄の桃割髷、服裝を見れば御所車に小櫻模樣の振袖姿、どう見ても相當に祿をはむ、武家邸のお嬢様としか思はれない

はて、一體何をしてゐるのだらう？

と、その時、延命院の垣の生垣越に、がさッ、がさツと熊笹を踏む、忍び足の下駄の音

同時に、集團の一同が聞耳を立てた

『はてな？　誰だッ！』

低い聲だが底力が籠つてゐる。

坊主がニユートッと鎌首を擡げて、伸び上つた、その目に映つたのはチラチラかんざしに高島田、これを文金とでも言ふのだらう。

『おッ、阿女だせ、しかも高島田の小女郎だ』

『何に？』

一同が立上つた

『ちげねえ、こいつア飛んだ上玉だ』

さう云つたかと思ふと、腕巻くりをしながら近寄つて行つた一人の三ン下、そのあとから、長い刀を落しに差した浪人風の男が二人薄氣味の悪い笑を湛へてついて行く

その跫音に、女の方でも爪先立てゝ延び上つて見たと、見るからに一癖ありさうな面魂をしたやくざ男に續く二人の浪人者

『あれッ！』

踵を返して逃げんとするその背後から

『ちよいと待つて貰わやせう、お嬢はん』

浴せた言葉だけで、娘の足が潤む大地に釘付にでもなつたやうだ

蛇に睨まれた雨蛙とでも云はうか、立すくんでものも碌に云はれない様子

『お嬢様　どちらでございます？お嬢様、お嬢様…』

土堤の向側でしやがれた聲がする。乳母か、付添ひの女中であらう。だが怯ね切つた娘は、舌の根が絡み上つたのか、聲さへたて得ない

呼び聲は次第に近づいて來る。土堤の上へ半身が出た。五十がらみの嫗。乳母のやうだ

『まアお嬢様……』

土堤の上からは兩者の對立が一目に見える

氣も顚倒せんばかりに乳母は、土堤を横ッちぎれに驅け下りて行つた

そうして娘の傍らへ

『お嬢様、早く歸りませう遅くなると旦那様が…』

險悪と見てとつて、乳母が急ぎ立てる

『お阿母、お嬢はんは歸されねえよ』

と、小面憎い顏をした三下

『どうしてゞ御座います？』

『お嬢はんに訊くがいゝや』

『あのう、ではお嬢様が何か？………』

その言葉尻をとつた浪人者の一人が

『ウム、拙者等の秘密を見おつたわい』

『えゝッ秘密を？……』

『さうだ、確かに見おつたに相違ない』

そうした言葉が終らぬうちに意外な方で

『見たぞ、いかさま仇討の狂言で、無智な衆人から金を集めおつたことも、そこな坊主が群集の中へまぎれ込んで、懐中物をかすめ盗つたことも、確かに此の二つの黒い眼で見屆けた』

凛としたサビのある聲だ

平市の實現とタイアツプ——

パーマネントマシンを設備
時代の要求する女性の美こそ永もちのあるパーマネントウエーブを！
進む時代に向つて遅れぬ設備ある弊院は此の際皆々様に是非パーマネントウエーブをおすゝめ致します
最も安く!!
お氣輕に!!!
そして親切に!!!
（高級藥品使用）
お値　七圓　五圓　三圓……カール一式
水野化粧院
水野冬子
平市驛前 電話六七八番
自宅 電話五二五番

百貨 藥品
福島縣平市二丁目
西村屋藥舗
藥劑士 鈴木新右エ衛門
電話 三番
振替 東京六・二九九 仙臺一・二〇一

平市南町
根本産婦人科
電 三四

酒とマツイ
おでんの榮ちやん
平市田町花ノ里
電話三三番

廣告

夜間診療
專門
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平市南町電一〇七番）

磐城の御みやげ品
名物 靈峰羊羹（みやま） 金十錢
姉妹品 柿羊羹。のり羊羹。沼ノ内辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土産品です。
小賣御希望の方お申越下さい。
小川郷驛前
製造發賣元 平屋賣店

鈴木醫院
日本歯科醫學士 鈴木喜政
歯科口腔外科
内郷村高坂磐炭病院前
『入院のお需めに應ず』
（看護婦及ビ見習看護婦募集）

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町（電話五八番）
藤田女學校前

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平市公園下
電話六七四
神經痛ニ
リウマチスニ
オレンヂパスタ

應召軍人
防寒用防彈チヨツキ
純眞綿製品
毛糸製品ヨリ安價ニシテ風ヲ通サズ保温最モ良ク最適品ヲ御勸メ致シマス。
平市二丁目
山家メリヤス店
電話六〇五番

杉田平十郎（HS線發明者 樂生堂本院長）著
必ず治る 淋病療法の新知識 無代進呈
淋病に罹つても心配無用……！
家庭の暗さも一掃される新療法！
ハガキで御申越の方に右の小冊子を送呈致しますから先づHS線の特性治淋原理を知られHS線を正しく認識して頂きたいと存じます。
淋病及慢性病一般
樂生堂HS線平療院
平市古鍛冶町（天理教會前）

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
關彰商店平支店
本店 水戸線下館驛前 電話六一番（電話五五・三三九番）
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、胡麻油、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三・八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店（電話一三七番）
小名濱支店
海上給油及油槽所（大津平潟江名濱）

和洋
建具 家具 テーブル 椅子……
其他装飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。

諸官衙 學校 御用達
各 製作販賣
片寄製作店
平市五丁目四
片寄小彌太
電話四八四番
十五、六歳以上の見習徒弟募集
御希望の方は至急申込下さい。

純菜種油製油
菜種油粕粉末肥料製造
保証成分量（本品百分中主成分量）
窒素全量 五・二
燐酸全量 二・四
卸小賣
力
白土屋製油所
平市一丁目
電話三六四

時代の要求 皆様の足!!
尼子タクシーへも
豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ……迅速簡便
是非御利用を……。
市内…三〇錢 市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行—直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平市二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

地方炭界稀有の現象
全面的の大赤字振り
今後の推移刮目さる

數字に暗影

去る十一日以降二十日の常磐炭山元發送高は時漸く需要季に入つて幾分の增加と觀られた豫想を裏切つて其れと反對に全面的減少と云ふ意外な結果を見せた。近來頓に增送の一途を辿つて來た昨今而も盆、正月の如き特殊の休日關係無くして斯の種の減少を來したのは時節柄全く稀有の現象であり、之れが果して炭界の將來を卜すべき恒久的のものであるかどうか徐ろに今後の推移を凝視さるるだけである、中旬中の成績次の如し

事業用三、八九八車四八、五五五瓲　鐵道用一、三二五車一七、九五七瓲　合計五、二二三車六六、四九二瓲

（前年對比減差）事業用九三二車九、四〇五瓲　鐵道二〇一車一、七一三瓲　合計一、一三三車一一、一一八瓲

で上、中旬を通算すると合計千三百十五車八千五百二十一瓲と云ふ近來稀有の赤字振りである

選擧處ちや無い
非常時局が反映して
湯本區議戰氣乘り薄

既報、地方の選擧界に於て的の畫策はあるにしても別に些か特異の存在たる湯本區に表立つた運動も行はれず會議員の選擧は僅々十日の既に新顏の立候補が現れた後に迫つたが目下の處では以上全然再選とは行かぬに時局柄蝸牛角上の投票爭ひせよ最初一寸選擧フアンのでもあるまいと云つた調子興味を喪つた該選擧は今迄で更にあぶらが載らず一部に無く微温的な空氣のうちには此際無事平穩裡の再選に行はれるではないかと觀說さへ唱へる向もある程でらるるに至つた最初の豫想に反し一二潜行

穀檢平支所新築協議
明後日組合長會議

石城穀物共同受檢組合では二十四日午前十時から平市會議事堂に組合長會議を開き過般來懸案となつてゐる同檢査平支所の新築に關し具体的協議をなす

現在同支所は市役所隣りにあるが組合側の意向としては市當局と交涉の上市役所構內に新築（工費大体五千圓）してもらひこれを借り受けたいとの事である

羽田大尉遺骨通過

今次事變で名譽の戰死を遂げた相馬郡中村町出身羽田勝信大尉の遺骨は二十二日午前十一時一分平驛下り列車で通過した

產米の改良
小作人と協力
近く地主會結成

石城穀物檢査所では「產米の改良は地主の自覺から…」を建前に目下石城地主會の結成を計劃してゐる、實現の上は優良小作人の表彰品評會などを開催、小作人と協力、斯道の向上改良をはかる

經更特別助成指定

渡邊村はこの程農林省で開かれた十二年度經濟更生特別助成村の最後的審査會の結果正式指定された、助成額は一萬三千七百圓

產馬組合臨時會

石城產馬畜產組合では來る二十八日平園体事務所で午前中は臨時評議員會午後同本會議を開き補充馬並に縣農馬に關する追加更正豫算を附議

再び戰線へ！
勇猛青野少尉の負傷に
入山從業員祈願

入山炭鑛人事係青野鄉夫少尉(三三)—靜岡縣小笠原郡土方村字落合出身—は曩に出勤以來石井部隊に屬して上海事變に活躍中であつたが氏が滿洲事變に幹部候補生として出征し武勳を立てた勳七等の勇士であり、且つ早大專門部時代からのスポーツマンとして昭和七年入山入社以來同礦運動部の指導を續け來つた氣銳の士丈けに、出勤以來同氏に似つかはしい奮鬪振りを期待されてゐたが果然某方面の戰鬪に於て名譽の負傷をした旨原隊に入電あつたとの事で山元では快癒の一日も速かに再び戰線に起つ事の出來る樣祈願を籠めて居ると

鐵昻騰に目がくらみ
古物屋父子四人の惡事
横田一家今曉檢擧さる

鐵管泥

昨報、平市役所の水道鐵管盜難事件は平署司法陣總動員の活動によつて市內大町古物商横田父子四名總がゝりの犯行と判明、今早曉その寢込みを襲つて一齊檢擧した、父子四名が一緒に留置場にたゝき込まれたのは珍らしいことである

トラックに積んで白晝、賣り込み
直接行動は伜夫婦ら

大町三一前科六犯古物商田村郡御舘村生れ横田平造(六二)長男平助(三五)同人妻セツ(三三)次男十吾(二六)の父子で昨報の如く市役所水道部が第三小學校前に積み重ねて置いた新鐵管三十五本(價格千三百圓)に目をつけ同六月初旬來每夜の如く平助、十吾、セツの三人がかりで盜み出しては自宅或は附近田圃で死かけのやうに打ち碎き、カマスに入れてたまり次第これをトラックやオートバイで白晝六丁目鑄物工場佐藤治郞方同月見町佐藤鐵工場に賣り飛ばし元手入らずの儲けを占めてたものである

同署では目下横田父子の贓品處分先を追究する一方關係者と思しき双葉郡請戶村生れ丸山某(四四)外數名を引致嚴重取調べを進めてゐるが相當廣範圍に上るらしく、軍需インフレの波にあつて密かにボロイ儲けを占めてゐる不良古物商にも檢擧の手が延びるものと見られる

事件顚末報告
けふ水道委員會

市役所では今二十二日午後三時から急施水道委員會を開き、眞野技師から事件の顚末を報告、今後の後始末を協議した

六時間で—大体目星つく
平署近來のヒット

前記盜難事件が二十日午前九時平署に屆けられると同時に同署では司法陣をあげて市內鐵工場或は古物商を片つ端から調べ上げた結果同日午後三時迄には早くも横田父子の犯行であることを突きとめたなど遠く東京迄に搬出した形跡もあるので佐藤、本田兩司法主任、菊池部長刑事が極力追究してゐる

贓品を買ひ受けた六丁目佐藤治郞氏は最初否認し續けてゐたが横山父子の檢擧によつて包みきれず贓物故買の嫌疑で引致されてゐる

取調べられて居り、一方品物の取引は一切店員まかせの月見町佐藤源吉方では始めのうちは知らずに買ひ込んでゐたが頻りに持ち込まれるのに不審を抱き最近では買受けを拒絕してゐたと云ふ

現場で足跡を發見
菊地探偵長の苦心談

同署では屆け出を受けるや市役所水道部主任技師眞野晋作氏と共に盜難現場を實地檢證したが、眞野技師はその際附近に車の轍や足跡のあつたことを發見、これが檢擧の上に相當役立つたものである

贓品が鑄物工場に賣り飛ばされて殆と溶かされてゐることと、鐵工場では古物商のやうに買ひ受けた品々をその都度記帳して置くことの規定がない處に搜査上の苦心があつたが案外早く眞相をつかみ得たので同署では喜んでゐる

ノンキ泥に八ケ月

既報、盜んだ品を相棒にせしめられるのも知らずに高鼾で寢入つてゐたノンキな泥的——双葉郡浪江町權現堂生れ前科十犯吉田榮助(五六)は二十一日平區裁田中判事から求刑通り懲役八ケ月の判決

例年より早く來るが
目下の處魚群は薄い
金華山沖にサンマを待つ磐城丸

秋の刀の魚。文字から受ける感じさへ三尺の秋水を想はせる樣な小氣味よいサンマは昨今の時局柄名からして一入軍國の秋に相應しい味覺の王者ではある——縣水產試驗場の磐城丸は目下金華山沖東北東四百海里の附近に於て探漁中であるが未だ投網せず、また地方當業者の出漁も三十三隻に及んでゐるが何等漁獲の情報無きも同沖三百五十海里に在る茨城丸、四百海里の常磐丸中茨城丸は昨二十一日夜三萬尾を初漁したが目下の處魚群が稀薄であると。尙は同方面に於ける海洋觀測の結果、北緯四十一度より四十二度間の水溫は極めて複雜化し或は十六度半或は十七度、十九度といふ亂潮を呈し昨年度の水溫十八度に比し平均二度內外低下してゐるから秋刀魚群も昨年より早く南下するものと豫想されてゐる

逬る赤誠！
寄附金と慰問袋

市內田町齋藤敏賓氏は金二十圓を軍事後援會へ寄附

○

內鄉村宮澤田巻ハル子さんは慰問袋一個を平市役所へ

○

市內胡摩澤桐谷くにさん(元磐中校長文平氏未亡人)は亡三男哲夫君の法事費用を節約した金五十圓を軍事後援會へ

●木炭組合評議員會●

石城郡木炭同業組合評議員會を二十六日午前十時から平園体事務所に開き十一年度決算其他を附議

時局を喰ふ男
餞別詐欺で捕はる

川前村上桶賣生れ千葉縣千倉町居住漁夫山田吉右衛門(三七)は此程鄉里に來り召集されたから留守を宣敷く賴むからといひふらし同村根本寅吉さん外二名から餞別を貰つた上、各戶に招かれて酒肴を馳走になつてゐるところを小野新町署に檢擧取調られてゐる

。。。學務委員會。。。

平市學務委員會は二十五日午前一時から開き第四小學校(舊平窰校)增築に關し協議

機關手に罰金求刑
衝突事件公判

昨報、木戶驛構內列車バス衝突事件の責任者——列車機關手阿部榮五郎(四二)自動車運轉助手澤田勇(三〇)兩名にかかる公判は二十一日午後一時再開、櫻井檢事から阿部機關手に罰金二百圓、澤田助手に禁錮六ケ月の求刑あつた、判決は三十日午前九時

軍事後援會寄附者

……（六）……

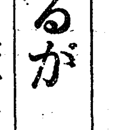
(立町) 八十錢村上七之助　七十錢梅津文吾　八十錢郡司多喜伊　一圓大圖直　五十錢福田亨　九十錢松本正　五十錢谷川保太郎　西鄉國太　野口長治　中川仙三郎　一圓飯澤逐次　藤田孝一　五十錢鈴木半次郎　鈴木民藏　九十錢小野造酒店　八十錢眞柄淸　九十錢工藤源吉　五十錢久野柳助　一圓芳賀沼源太郎　丹野定道　九十錢勝沼正春　五十錢大友義明　新妻良平　五圓五十錢賀澤亨　計百三十四圓五十錢

(材木町) 二十圓鈴木要七　八圓島辰次郎　七圓櫛田榮太郎　十圓吉田平一　七圓長瀨富彌　八圓高田衛　十圓平電氣鑄綱所　五圓吉田要二　七圓鈴木淺之助　十圓平製作所　四圓小笠熊吉　五圓綠川茂　鈴木義德　篠山廉　四圓阿部太平　三圓中津一郎　石山忠三　二圓五十錢稻川春吉　二圓渡邊政畝　四圓石山一治　一圓五十錢根本幸次郎　二圓中根ナカ　三圓阿部傳六　二圓五十錢中村淸吉　石川錢助　淺野孝治　一圓五十錢鈴木唯重　昭和鐵工場　三圓佐竹菊雄　二圓栫崎安由　三圓佐々木芳一　一圓千代幸三郎　一圓五十錢鈴木勝彌　金成泉一郎　鯨岡徹二　計百六十圓

二十三日（小名濱測候所發表）
滿潮 前五、五五 後五、二五　干潮 前一一、四五

二十四日
滿潮 前六、四〇 後五、五五　干潮 前〇、一五 後〇、一〇

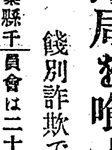
舊八月九日　木曜　癸丑　友引　定　斗宿　新九月二十三日



暦判定應需　東京市本鄉區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白 元氣おとろへて惱さんとする事も心に任せぬ日▲二黑 飛石を便りに淺瀨を渉らんとし足をすべらす▲三碧 生計に愁隙りなきも一家の和合を旨とせよ▲四綠 一點のくもも忽ち晃天模樣に變ずる如し警戒▲五黃 機至れりと見るは早計見損によらぬ敗あり▲六白 活氣加はり多幸なる日普請造作移轉開業吉▲七赤 萬々物々順調に滿足する日耐忍勇奮至極吉▲八白 血氣の勇あるも到達半ばにさせつす進むに凶▲九紫 貸り登なれば穂先は益々たる賭事けんじやうたれ

舊八月十日　金曜　甲寅　先負　執　牛宿　新九月二十四日



▲一白 事務多忙を極むるも實績意外に揚らざる日▲二黑 運氣さかんなる日うちよすれば幸運を脫がすべし▲三碧 うつ氣に閉ぢられ何事も手に附かぬことあり▲四綠 做にならぬが浮世と斷念して退き守るが安全▲五黃 耐忍して努力すれば惡まる丶事更に大なり▲六白 あかず練磨すれば金的をも容易にい貫くべし▲七赤 焦れば焦るほど物事のはかどらぬ日相談成らず▲八白 目上の引立を受け地位向上し願望亦成就す▲九紫 內外共に口舌そしような防がずば後悔多大なり

廣告

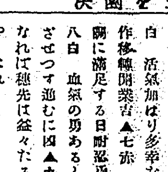
上田醫院　平市南町　電一二九

松村醫院　院長 松村鐵郎　平市南町電一〇七

耳鼻咽喉科　高柳醫院　醫學博士 高柳博明　平驛前（電三三六）（入院隨意 自炊ノ便アリ）

吸入用酸素 純度99%　度量衡 モノサシ マス ハカリ　計量器 体溫器 寒暖計　關內藥局 電話四〇番

耳鼻咽喉科專門　大和田醫院　平市南町一六番地 電一七〇番（入院隨意 病室完備）



眼鏡專門の店　自覺視力試驗の設備もあります。御自由に御試し下さい。　各眼科處方調製　玉屋眼鏡店　平市二丁目

ニッポン。魚は磐城魚　平製氷會社 特約 電二三八・三二六番　鯛 甘鯛 エビ マナ鰹 白魚 帆立貝 ワカサギ ウニ貝燒　ピノマル鰹魚　配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。　魚問屋 電三二八番

生花教授　池ノ坊　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。　平町四丁目和泉屋旅館　須藤まつの